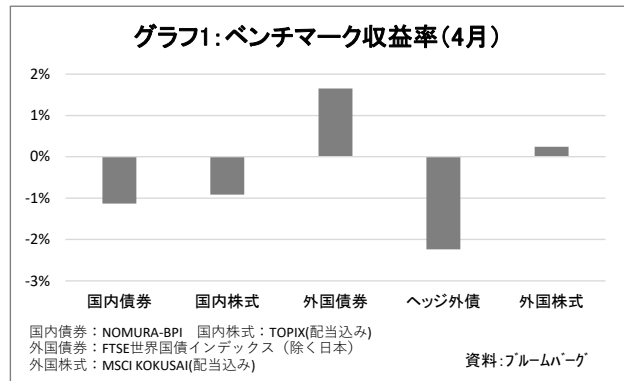


4月の市場動向と5月の注目点

1. ベンチマークの推移 ～国内資産が下落、為替円安が外貨を支える

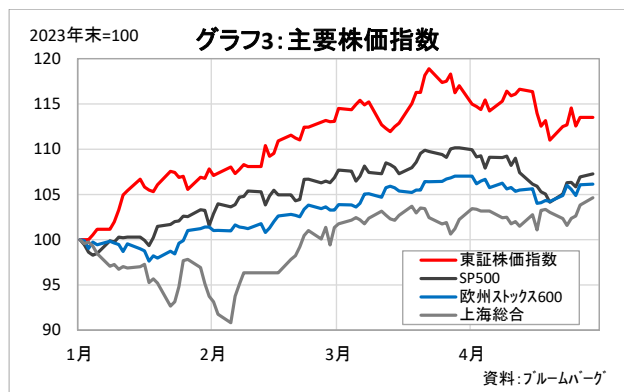
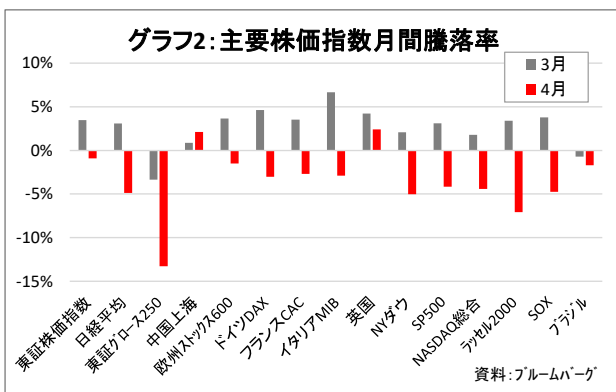
グラフ1は4月の主要ベンチマーク収益率です。国内株式は年初からの急上昇にブレーキがかかり1%弱のマイナス、また内外長期金利が上昇し国内債券は1%程度、ヘッジ外債も2%程度のマイナスとなりました。一方、為替円安を追い風に欧米長期金利が上昇したものの外国債券は1%台のプラス、主要株価指数の下落幅は日本株を上回りましたが、外国債券同様円安に後押しされ外国株式は小幅ながらプラスで終わりました。



2. 各市場の動き

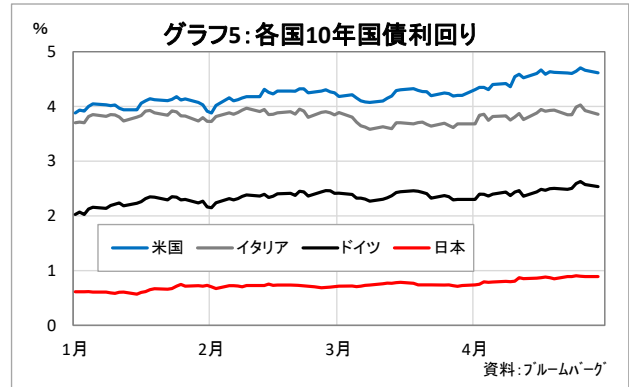
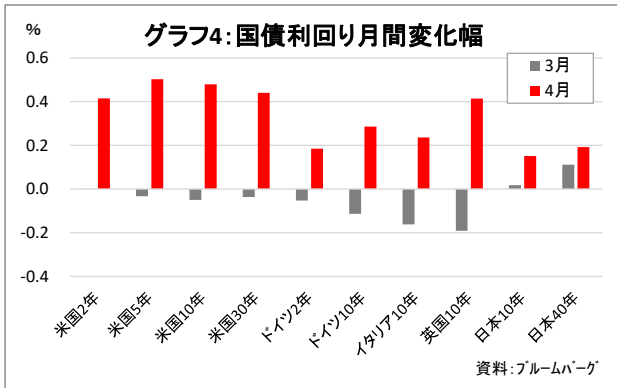
① 内外株式 ～反落

内外株価は年初から急激な上昇が続きましたが、3月半ばからブレーキがかかり始め4月は反落しました。上昇を主導してきたテクノロジー関連が下落に転じ米国株の下落幅が拡大、欧州は概ね小幅の下落に留まりました。年初から軟調に推移してきた中国株は小幅ながら反発、日本では外国人投資家の資金流入に後押しされてきた大型株を多く含む日経平均指数の下落幅が東証株価指数を上回りました。また東証グロース250指数(旧マザーズ)は大幅に下げました。



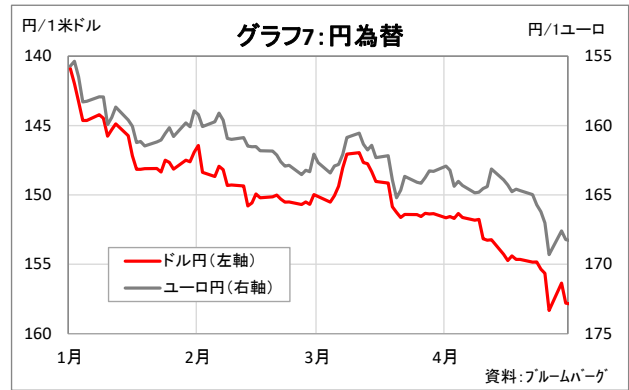
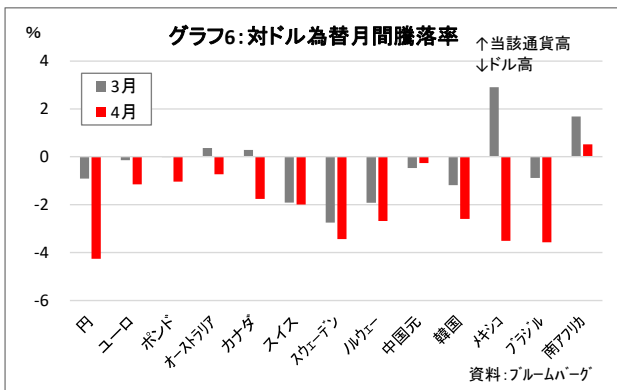
② 内外債券(長期金利) ～内外長期金利が上昇

米国のインフレ率が徐々に緩慢となり、金融当局者による市場の利下げ期待を牽制する発言が続いたことから米国長期金利は各年限とも上昇しました。ユーロ圏では年半ばからの利下げが見込まれていますが米国市場の動きが波及し各国とも長期金利が上昇、日本銀行はマイナス金利解除後も緩和的状态を維持するとしていますが、日本の長期金利もやや上昇しました。



③ 為替 ～円安が加速

米国利下げ期待の後退から円安が加速しました。4月26日(金)の日本銀行金融政策決定会合結果発表後、週明けの29日に日本が休日で市場参加者が少ないなか投機的な動きが高まり、ドル円は160円を突破しました。日本の当局は円買い介入を実施した模様で一旦は反転したものの円安の流れを転換させるには至りませんでした。ユーロは対ドルで小幅安、年初から堅調に推移してきた新興国通貨も株価同様反落しました。



3. 4月の主な出来事

① 金融政策

欧州中銀は11日に会合を開催し予想通り政策金利の据え置きを決定、次回6月会合での利下げ開始を示唆しました。もっとも市場はほぼ織り込んでおり驚きはありませんでした。日本銀行は29日に結果を発表、3月に大きな決断をした直後でもあり予想通り据え置きとなりました。ただし直後の記者会見で植田総裁が円安の影響について誤解を生みかねない発言を行い円安の流れを加速させる材料となりました。米国ではパウエル議長が「利下げがいつになるか、年後半に開始できるか不確実になった」、ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁が「基本シナリオではないが、データが正当化すれば利上げの可能性もある」と発言するなどタカ派的なメッセージが続きました。

② 円為替関連

17日に米国ワシントンで日米韓財務相会合が開催され、声明文で「米国財務相は円とウォンの下落について両国財務相の懸念に留意する」という文言が示されました。一部では米国が日本の円買い介入を承認したのではという観測が広がりました。その後29日に日本当局は介入に踏み切った模様です。

③ その他政治関連等

米国のウクライナ支援法案は昨年末から滞っていましたが、トランプ派とされる下院議長が方針を転換させ24日に成立に漕ぎつけました。

岸田首相が訪米し日米首脳会談が開催され日米両国の緊密な連携が確認されました。その後政権支持率はわずかながら上昇しましたが、28日に行われた3つの衆議院補欠選挙で自民党は不戦敗を含め全敗、先行き不透明感が高まりました。

中東ではイスラエルがシリアのイラン大使館を攻撃した模様で、イランは大量のドローンやミサイル等でイスラエル領土に反撃を行いました。両国間の直接攻撃は初めてとなり緊張が高まりました。

4. 5月の注目点

① 金融政策決定会合

本日（日本時間5月2日未明）に米国が結果を発表します。政策金利の据え置きは確実ですが、市場の利下げ期待が大幅に後退しているなか議長の発言が焦点となりそうです。

② ドル円為替の行方

介入が伝えられた直後は円高に振れたものの円安の流れが再び強まりつつあります。160円の攻防戦が続くのか注目したいと思います。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用第一部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2024年3月以降のレポート

- 3月 1日号 2月の市場動向と3月の注目点
- 3月 11日号 先週の重要イベントを振り返る
- 3月 21日号 日米金融政策決定会合を終えて
- 4月 1日号 3月の市場動向と4月の注目点
- 4月 3日号 2023年度の金融市場
- 4月 8日号 2023年度第4四半期の市場動向と今後の注目点
- 4月 26日号 歴史が繰り返すとすれば

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者
関東財務局長（金商） 第404号

一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人投資信託協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目9番1号
電話 03 - 4223 - 3134

*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。

*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。